第2課　支配権の回復

【暗唱聖句】

神は言われた。「我々にかたどり、我々に似せて、人を造ろう。そして海の魚、空の鳥、家畜、地の獣、地を這うものすべてを支配させよう。」創世記1:26

【今週のテーマ】

神様は人間を創造されたとき、人間にこの自然を支配するように計画されました。支配とは正しく管理することです。この自然は驚くばかりの調和がとれ、人間が正しく管理すれば、それはすべて人間にとっての幸福となって反ってくるのでした。しかし、罪の結果、人間は神のかたちだけでなく、この世界の支配権も失いました。そして、人間は自分の欲望のために、サタンの心で自然を支配するようになりました。その結果、自然の美しい調和は壊されてしまっています。神の救いの計画の中には、この支配権の回復も含まれています。この支配権とは何を意味しているのかを考えながら、もう一度自然に目を向け、それを大切に管理していくことの恵みを考えてみたいと思います。

【日曜日　支配するために造られる】

人は何のために生きているのか、生きる目的がわからず悩む人がいます。人間が罪を犯さなければ、このような悩みも生じなかったことでしょう。なぜなら、人間が造られた目的は明らかだからです。人間は神の栄光を現すために創造されたのです。

「彼らは皆、わたしの名によって呼ばれる者。わたしの栄光のために創造し／形づくり、完成した者」イザヤ43:7

「あなたがたは、代価を払って買い取られたのです。だから、自分の体で神の栄光を現しなさい」第一コリント6:20

人間が神様に似せて造られたのは、まさに神様の栄光を現すためです。その目的はいまも続いています。わたしたちは、それぞれの生き方を通して神様の栄光を現し、神様が称えられるようになることを、主は願っておられます。そのために聖霊が一人ひとりの内に宿り、内側から神様に似たものへと作り変えてくださると約束しておられるのです。自分が何のために生まれてきたのかわからない人が大勢います。それは自分だけを見つめているからかもしれません。神を見つめるとき、そこに自分の存在理由が見えてくるのです。

また、私たち自身を通して神様の栄光を現すだけではなく、人間が神様の御心にそって自然界を正しく支配していくことによって、すべての被造物が神様の栄光を現すようにと神様は計画されました。この世界はすべて、神様の栄光を現し、称えるために作られたのです。しかし、本来それを管理すべき人間が、逆に自然を破壊し、神様の栄光を台無しにしているのが現実なのです。

【月曜日　支配する特権】

1:26 神は言われた。「我々にかたどり、我々に似せて、人を造ろう。そして海の魚、空の鳥、家畜、地の獣、地を這うものすべてを支配させよう。」 1:27 神は御自分にかたどって人を創造された。神にかたどって創造された。男と女に創造された。 1:28 神は彼らを祝福して言われた。「産めよ、増えよ、地に満ちて地を従わせよ。海の魚、空の鳥、地の上を這う生き物をすべて支配せよ。」

支配とはヘブライ語のラダーという言葉からきていますが、この言葉には支配する権利と同時に責任が伴っています。また、「従わせる」はカバシュという言葉です。この神の言葉は、人間はすべての被造物に対して上の立場に立っていることを現しています。しかし、罪を犯す前の人間に対して言われていることから、自然に対する支配は、すべて善意からくるものでした。

また、創世記2:15では、「主なる神は人を連れて来て、エデンの園に住まわせ、人がそこを耕し、守るようにされた」という言葉から、自然を支配することに対するもう一つの側面を見出すことができます。耕すはへブル語の「アバト」で、働く、仕えるという意味もあります。また、守るは「シャマール」、見張る、注意を払う、保護する、監視するという意味があります。つまり、自然を支配せよとは、人間の利己的な思いで自然を支配しても良いと言っているのではなく、思いやりと愛情をもって、世話をしていく、管理していく、守っていくということを意味しているのです。

【火曜日　境界線】

人間は様々なものを支配し、管理するようにと言われましたが、境界線がないわけではありません。人間も立ち入ることができない領域があります。たとえば、エデンの園では善悪を知る木がそうでした。人間は境界線を踏み越えたために、今でも苦しんでいます。

自然界は、そこに生息する生物の食物連鎖と周辺の森林・土壌・海・川などの環境、気候が見事にバランスを取り合っています。これを生態系と言いますが、この生態系を、人減は自ら、森林を伐採したり、環境を汚染したりして破壊しています。その結果、しっぺ返しのように、温暖化の問題やゲリラ豪雨、土砂崩れなど、様々な自然災害がもたらされる一因ともなっています。

・森林伐採の影響

森林では様々な生物が複雑で微妙な関係を保って生態系を作り出しています。生態系自身が生き物のように、環境の変化に合わせて自ら安定化を図っています。しかし、森林伐採によって、木々を支えにしていた動物や昆虫たちは住処を追われます。また、河川の栄養源になる森林がなくなることで、水中の生態系も破壊してしまいます。また、地盤が緩むようになり河川が氾濫しやすくなります。さらに森林は温室効果ガスを中和する大きな役割りをもっているため、伐採によって温暖化が進むことになります。このまま温暖化が進めば、温かい地域にしか生息しなかった昆虫が寒い地域に生息するようになり、寒い地域でしか生きられない生き物は消えてしまうという可能性も高いのです。

・環境汚染の影響

工場排水や下水道の整備が遅れ、河川に生活排水が流されています。すると、自然の浄化システムでは間に合わなくなってしまいます。特に川の底や土手をコンクリで固めて整備されていると、自然の浄化システムそのものが働かなくなります。さらに深刻な生態系破壊につながっているのは、温室効果ガスを含む産業排出物や車の排気ガス、ごみ焼却時にでる煤煙による大気汚染です。大気汚染は、温暖化や空気を汚すだけでなく、雨に溶け込んで水や土壌も汚染してしまうため、森林や河川・海にも大きなダメージを与えています。

十戒の中に見る境界線

十戒の中にも境界線が設けられています。たとえば、「殺してはならない」（創世記20:13）とありますが、これは殺人だけを意味しているわけではなく、基本的には命あるものすべてを含んでいます。支配は、理由もなく、殺生しても良いとは言っていないということです。

【水曜日　地球の世話】

「主なる神は人を連れて来て、エデンの園に住まわせ、人がそこを耕し、守るようにされた」創世記2:15

罪を犯す前、神様はアダムとエバにあらゆるものを管理し、守るように命じられました。二人が神様に従順であったとき、自然界は彼らの統治に従っていました。しかし、彼らが神の戒めに背いたとき、この統治権は失われ、二人によってもたらされた反抗心は、動物界にまで広がりました。この結果、獣の性質、森の木々、野の草、人の呼吸する空気までも悪の知識について悲しい教訓を告げるようになったのです。人間は、本来人間に従っていたはずの自然の厳しさの前に無力を感じます。しかし、自然の厳しさは、人間を謙遜にさせます。そして罪の自覚を生じさせます。神様が自然を通して語っておられるかのようです。自然を通して語られる神様の声に耳を傾ける必要があります。

ところで、神様が人に園を耕す仕事を与えられたのは何のためでしょうか。創世記2章9節に「神である主は、その土地から、見るからに好ましく食べるのに良いすべての木を生えさせた」とあるので、生きる糧を得るために耕すということではないことがわかります。人が「地を耕す」務めを与えられたのは、地から食物を得るためのものではなく、人が置かれた地において、神の似姿としての創造性をもって生きるために、神に仕え、地に仕え、地のために働くことなのです。ちなみに「地を耕す」という務めは、人が罪を犯す前のエデンの園においても、また罪を犯してその園から追放された後も、何ら変わることなくその務めが継続しているということです(創世記3:23)。とすれば、「耕す」(「アーヴァド」עָבַד)という仕事は人間が人間となるために必要不可欠なものだということになります。後に、「働く、仕える」という「働き」(「エヴェド」עֶבֶד)は、自発性をもった神のしもべとして、神と人とに「仕える」という「しもべ」としての崇高な祭司としての務めとして発展していきます。

【木曜日　支配権の回復】

罪の結果失った支配権を、正しい意味でもう一度回復させることは重要なことです。また教会はそのための働きに召されています。罪の結果、この世界に茨とあざみが生じた（創世記3:17，18）と聖書に書かれてあります。そして、まるで人生が茨とあざみに覆いつくされてしまったような困窮状態にある人々が大勢います。しかし、これは本来の人間の姿ではないのです。この世界を支配するはずの人間が、逆に支配されているかのような状態です。だから、もう一度支配権を回復させる必要があるのです。つまり、本来のあるべき姿に戻る必要があるのです。

「あなたの神、主が与えられる土地で、どこかの町に貧しい同胞が一人でもいるならば、その貧しい同胞に対して心をかたくなにせず、手を閉ざすことなく、彼に手を大きく開いて、必要とするものを十分に貸し与えなさい」申命記15:7、8

食べる者にも事欠く状態にあるとき、この世界を支配するどころか、逆に支配され、押しつぶされそうです。教会はそのような人々に手を差し伸べる必要があります。そして、その働きを通して、主にある希望を語るのです。

「心の中でキリストを主とあがめなさい。あなたがたの抱いている希望について説明を要求する人には、いつでも弁明できるように備えていなさい」第一ペテロ3:15

「彼らの身体的な必要を助けることで、私たちは彼らの心が聖霊に触れられるための下準備もしています。これがイエスがなさったことであり、これがわたしたちもするように召されていることです」SSガイドP16

【金曜日】　さらなる研究